

Vol.13
2012 AUTUMN

ISSUE

【繋ぐ】

Sculpture of paper produces a color and light to space

ゆれる紙のオブジェ
「モバイル」の魅力。



紙の持つ可能性・面白さを再発見
「PAPER TRIVIA」



TSUNAGU 2012 Autumn

空気と共存する、紙のインテリア

モビール

モビールは、紙などで作ったオブジェを糸や針金に吊るした「動くアート」。
かすかな風や空気の流れに敏感に反応し、ゆらゆらとゆれ動くさまは
暮らしにうるおいを与えるインテリアとして人気を集めています。
自然の力を動力に、空中を泳ぐようにゆれながら
空間に色と光の変化をもたらす、モビール。
その繊細な動きを、ゆったり眺めてみませんか？



02 「PAPER TRIVIA」
空気の流れによって動く
「モビール」の楽しみ方。



06 「PAPERCRAFT on the DESK」
いろけんさんの
モビールをつくってみよう。



08 「紙育(カミイク)」
手動アニメーション
「パラパラマンガ」の魅力。



09 「KAMI-WAZA 紙ワザ」
手漉き和紙職人の
品質へのこだわり。



11 「紙が紡ぎ出すものがたり」
『ノルウェイの森』を綴った
意外な紙とは？



12 「KPP HEADLINE」
KPPの最新ニュースを
キャッチアップ。



13 「KPP人物図鑑」
女性営業が感じる
新規顧客開拓の醍醐味。



14 「EDGE of PAPER」
紙のスピーカー「KAMOME」
&和紙でできた雪の結晶。



15 「季節の一冊」
満月の光で撮影された
珠玉の月光写真集。



いろけんせん
オリジナル・モバイル作品



「北風と太陽」
童話「北風と太陽」をモチーフにしたモバイル。
北風に飛ばされたものとは...



「肉球」
ボールと遊ぶネコ。ネコを飼っている家のインテリアとしてもおすすめです



「おとな象さん」
愛らしい象の親子をモチーフにした作品。小象がリングを手に入れました



「Twinkle」
間接照明などで照らすと美しいシルエットが映し出されるモバイル作品です



「青い鳥」
5羽連なる青い鳥がモチーフになった作品。照明によるシルエットも映えます

3冊の著書

多くのモバイルの紹介に加えて、実際に切って作れる型紙集がついています



飾られたモバイルは、人と暮らすことで作品になる

幾重にも重なる水平な天秤に、ゆらゆらとゆれ動くオブジェ。左右が整っていないにもかかわらず、常に釣り合いを保ち続ける構造と、吊るされた飾り物の自然に揺れる動きが、「モバイル」の大きな特徴です。

「どう動いて、どう見えるのか。実際に吊るしてみないとわからないのがモバイルの魅力です」。そう話すのは、動物などをモチーフにした温かみのある作品や、ユーモアをアクセントに、ストーリー性のある作品が人気のモバイル作家、いろけんせん。「例えば、人が近くを通ったり、座っている人が立ち上がるだけでも新たな空気の流れが生まれる。そんなわずかな変化にも揺れるモバイルは、飾ってもらって人と生活することで初めて作品として完成するものなんです」と語ります。

モバイルは、作り手が作り終えた時点で完成ではなく、実際に使う人によってさまざまな要素を付け加えられ、初めて作品として完成するアート。つまりは、空間すべてが作品というわけです。

イラストレーターからモバイル作家への転身

そんないろけんせんが初めてモバイルと出会ったのは4年ほど前。それまで、いくつもの連載を抱えるイラストレーターとして活躍していたいろけんせんは、平面のイラストに動きを持たせる新しい表現方法を模索していました。そんなある日、好きなアーティスト

た。「ある意味、日本の風鈴もモバイルの一種かもしれません。わずかな風を涼やかな音色に変えて楽しんでいたわけですから。日本にはもともとモバイルを受け入れる土壌があったのかもしれない」というけんせん。空間に色と光をもたらすことによるリラクゼーション効果だけでなく、乳幼児の視覚的刺激としても注目を集めるモバイル。今後ますますファンが増えていくのは間違いなさそうです。

両親から譲りうけたユーモアのセンス

いろけんせんが作るモバイルには、哀愁漂うお父さんと、それを見つめる猫(作品名「お父さん」)や、北風に大切なつらを飛ばされてしまった男性(作品名「北風と太陽」)など、毒とユーモアを効かせた作品も数多くあります。「実は、両親と弟が吉本(興業)で漫才師をしているんです。それもあって、相手が面白がるリアクションを求める素養が元々あるのかもしれないね」とのこと。そのユーモアのセンスは、代々受け継がれているものようです。

また、単色やモノクロの作品が多いのも、いろけん作品の特色のひとつ。「黒一色のモチーフでも、光の当たり方によってグレーに見えたり、ハレーションを起こして白く見えたりする。その動きによって変化する色の濃淡を楽しんでほしいですね」。

部屋の照明や窓から差し込む外光によって壁や天井に映る影も、モバイルの魅力なのです。

テイストのライブ会場に吊るされた巨大なモバイルを見て大きな衝撃を受けたそうです。「5、6メートルもあろうかという大きな鳥のモバイルがゆらゆらとゆれているのを見て、思わず目が釘づけになりました。それ自体は平面的なものなのに、針金と糸を組み合わせさせて吊るすことで動きが生まれ、立体的に見える。『これだ!』と決意した後まもなくして、すべての連載誌に断りの電話を入れました(笑)」。

これを機に始まったいろけんさんのモバイルづくり。しかし、すぐに順風満帆とはいかなかったそうです。「当時の日本では、今のように普及していなかったので、お手本となるものが何もなく。作り方を紹介した書籍も、ウェブサイトもなかったため、モバイルを陳列している雑貨店に足繁く通い、紙の厚さや針金のカチなど、小さなヒントを探す毎日でした」といろけんせん。

その後、試行錯誤の末に生まれた数々の作品は、インターネット等を通じて徐々にファンが拡大。数々のテレビ番組で取り上げられたことで、一気に認知度が高まっていったそうです。

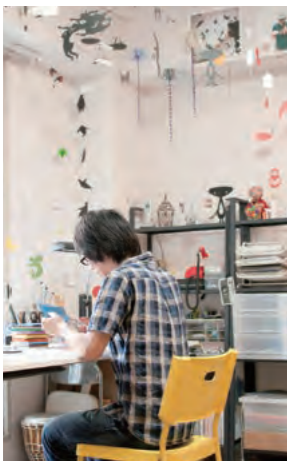
古くからあった日本の伝統的モバイル

アメリカ人彫刻家、アレクサンダー・カルダーによってその原型を創案されたモバイル。その後、冬が厳しく、夜が長いスカンジナビア各国を中心に、重苦しくなりがちな室内をできるだけ明るく、楽しく過ごすための装飾アイテムとして発展してきました。

紙へのこだわり、新素材への挑戦

バランスを保つ天秤の重りとなるオブジェ。その基本となる素材は、少し厚みのある紙です。いろけんせんがいろいろ紙で試作を重ねた末に行きついたのは、ケンランというケント紙。「表面がつるりとしているので、光の当たり具合によって紙以外のものにも見える。光の反射を楽しむ意味でも、この紙を気に入って使っています」。また、モバイルを長期間楽しむためには、その厚さも重要なのだとか。「北欧と違い、日本には四季があるので、湿気対策も重要です。紙は湿気によって反りやすいため、普通の上質紙よりも厚い紙でなければなりません」と語ります。

また、いろけんせんは、木材やプラスチックのほか、アルミなどの金属、さらには鏡面フィルム加工など、紙以外の素材も積極的に作品に取り入れています。「固く糊付け加工をした1枚の手ぬぐいを、そのまま作品にしたことでもあります」など、型にはまることなく、新しい挑戦を続けています。



たくさんの商品や試作品が吊るされているアトリエ。パーツの切り分け以外はすべて手作業で行うため、出荷前には大量のモバイルであふれることも。

紙と触れ合い、モノを作る
「PAPERCRAFT on the DESK」

TSUNAGU特別仕様

SORA mobile factoryの「虹とバルーン」

このモビールは、SORA mobile factoryのオリジナルモビール「虹とバルーン」を、本誌のためにマイナーチェンジしたものです。自宅や職場の天井に吊るして楽しんでください。

【材料】
 ・糸…2本(5~10cm)
 ・糸巻き…1個(長さ1m)

【作り方】
 ① 本ページの色のついている部分をハサミとカッターで切りぬき、各パーツにあるすべての[.]部分に糸を通す穴をあける。
 ② 2枚のバルーンを交差させるように、切り目を重ね合わせる。
 ③ A、Bの穴に糸を通して結び目を作り、接着剤で固めて糸とパーツを固定する。
 ④ 最後Cの穴に糸巻きの糸を通し、③と同様に糸とパーツを固定したらできあがり。

TSUNAGU x SORA mobile factory

パーツはこちらのページから切り取ってください

モビールの基本的な作り方

※作り方は、SORA mobile factoryホームページ(<http://soramobile.net/>)でも詳しく紹介されています。

飾って眺めるだけでなく、自分でも作って楽しみたい方のために、モビールの作り方をご紹介します。「コツをつかめばモビールづくりは簡単」(いりけんさん)なので、次ページにあるモビールを作る際にも参考にしてくださいね。

準備

① 糸②カシメ玉(1.5mm)③ステンレスのバネ線④ニッパー⑤はさみ⑥カッター⑦糸巻きと糸⑧ペンチ⑨マチ針 そのほか、接着剤、マスキングテープも用意。

② バランスのとれる場所を見つけたら、マスキングテープを使って糸を仮留めする。

③ 型紙の輪郭に沿って型取りをする。細かい部分はカッターの刃先を使って紙を動かしながら慎重に切り取る。

④ ペンチを使ってバネ線の両端5mmのところを直角に折り、ストッパーを作る。

⑤ パーツをつけた糸をバネ線に2周巻きつけてからかた結びし、両端に移動。同様の方法でバネ線の中央に20cm程度の糸を結びつける。

⑥ 指先で糸を持ち、バランスをチェック。糸の結び目を適度に移動させながら平衡をとり、位置が決まったら接着剤で固定する。

完成

モビールは、エアコンなどの風が直接当たる場所を避けて飾りましょう。静かな部屋でも、ごくわずかな空気の流れに反応して動きます。

※「カシメ玉」は手芸店やビーズショップ、「バネ線」はバネ材専門通販サイトで購入できます。カシメ玉が無い場合は、かた結びをして結び目に接着剤をつけましょう。

ジャンルを超えた作品提供が
モビールの可能性を広げる

モビール作家として、これまで200アイテム以上のオリジナル作品を創案してきたいりけんさん。商品として発売するものだけでなく、企業CM用に作った作品から、商業施設に展示する巨大なもの、さらにはイベントに絡めて野外で展示するものまで、幅広いクライアントワークにも作品を提供しています。福岡のファッションビルでは、「約20メートルの吹き抜けに、等身大の大型モビールを27体吊るる展示」も担当したそうです。そのほかにも、ジャンルの垣根を超えて、さまざまなアーティストとのコラボレーションにも挑戦。書道家・紫舟さんとのコラボでは、書の一文字一文字をモビールにして展示するなど、多彩な活動によってモビールの可能性を広げています。

モビールは、心を癒す
リラクゼーション・アート

また、モビールをより多くの人に楽しんでもらうための活動にも精力的に取り組んでいます。「子どもさんや主婦、親子で参加するワーク



福岡にあるファッションビルで展示された、27体の等身大人型モビール。吹き抜けに注ぐ照明や自然光による反射を活用。

モビール作家
いりけんさん
SORA mobile factory

1968年生まれ、兵庫県西宮市在住。イラストレーターを経てモビール作家に。現在はWebサイトや全国の雑貨店などでオリジナル・モビールを販売する一方、個展、イベント、ワークショップなど、モビールの普及活動にも進んでいる。また、今年4月からは朝日新聞の購読家庭に配布される小冊子「スタイルアサヒ」の表紙にモビール作品を提供。著書に、「モビール・スタイル100」(誠文堂新光社)、「モビール作家いりけんのモビールづくりの本」(日東書院)、「切って つなげて 贈りたくる「モビールの本」」(池田書店)がある。

【SORA mobile factoryホームページ：<http://soramobile.net/>】

ショップを全国各地で開催しています。野外のワークショップでは、道具を何も持たずに森に入り、落ちてくる枝、木の実、いろいろな色の落ち葉などを組み合わせてモビールに。最後に木に作品をぶら下げて帰るんですけど、組み合わせ次第で既製品よりも美しいものができる。子どもの自由な発想には、驚かされることばかりです」と笑顔がこぼれます。

「音楽と同じように、生活に欠かせない当たり前のもの」「いりけんさん」として、日本各地で広がりつつあるモビール。刻々と変化する慌ただしい世の中とは無関係、といわんばかりに、ゆったりとゆるゆるの様子を見つめていると、心の内側の凝りがほぐれていくように感じます。紙と空気が織りなす、やさしいリラクゼーション・アートを、あなたの生活にも取り入れてみてはいかがでしょうか？

辿る
Ta-do-ru

未来に遺すべき“紙文化”
「紙育 kami-iku」



『バラバラブックスシリーズ vol.1~9』

作者:もうひとつの研究所 発行元:青幻舎

おとぎの話のような世界観と、不思議なキャラクターが織りなす、幻想的なバラバラマンガ。虫たちが爆発すると実際の紙にも穴が開く「ばくだんむし」や、ページをはじくと鈴の音が聞こえる「クリスマスの足音」(本体に鈴を内蔵)など、バラバラマンガの特性を活かした工夫も。(上の写真は「ばくだんむし」)

今回のテーマ

バラバラマンガ

紙を指ではじくことで、
命を吹き込まれ、動き出すイラスト。
今、あらためて注目される理由とは？

鉄拳さんの動画作品「ナカナル」絆「振り子」「スケッチ」は動画投稿サイト「YouTube」で鑑賞できます。

授業中、教科書やノートの片隅に描かれた、コマ送りのようにぎこちなく動く棒人間(アタマは円、カラダは棒のイラスト)。学生時代、先生の話はそっこので、バラバラマンガにふけた思い出をお持ちの方も多いことでしょうか。

このバラバラマンガが今、あらためて注目されています。そのきっかけとなったのは、先のロンドン五輪で金メダルを獲得した、男子体操の内村航平選手。彼は中学生の頃、棒人間が飛びあがり、着地するまでの動きをバラバラマンガにして教科書の隅に描いていたとか。空中で回転している時も、上下左右の「空中感覚」を把握できるといふ内村選手は、バラバラマンガを描くことでその視界をイメージし、自分が空中で到達できる世界を模索していたのではないのでしょうか。

そして、日本のみならず、世界からも称賛を浴び、大旋風を巻き起こしているのが、お笑い芸人の鉄拳さん。水性サインペンで描いた1000枚以上のイラストを、1枚1枚撮影。それをつなぎ合わせてできた約3〜4分の動画は、そのやさしい画と心温まるストーリーが話題を呼び、動画投稿サイトにアップロードされるや否やたったの1週間で300万アクセスを記録。今や国内外アーティストのプロモーションビデオをはじめ、企業CMとしてのオフアームも殺到しているとか。ちなみに彼がバラバラマンガに使用している紙は、B6判のコピー用紙。重ねた時に下の絵が薄く見えるので、最も描きやすいのだそう。

紙をはじく感触とともに、記憶に残るバラバラマンガ。久しぶりに新作を描いてみませんか？



TSUNAGU x SORA mobile factory

パーツは裏面から切り取ってください▶



紙を愛する匠たち

「KAMI-WAZA 紙ワザ」

手漉き職人たちの想いが詰まった 千年先に繋ぐ、純白の美濃和紙

千年先の未来へ繋ぐ紙製品

日本三大和紙のひとつとして知られる『美濃和紙』。その起源は古く、奈良の正倉院に現存する日本最古の戸籍用紙に使用されていると記されていることから、少なくとも大宝2年(702年)には美濃和紙が存在し、当時からその品質が高く評価されていたことがわかります。

山々に囲まれた長良川の清らかな水、和紙を作るための良質な材料、都へ運搬するための水運に恵まれ、1300年余の歴史を紡いできた美濃和紙。洋紙が中心となり、機械化が進む時代の流れと、手漉き職人の高齢化によってその担い手が少なくなる中、美濃和紙の文化を千年先の未来に繋ぐために誕生した商品があります。



コルソヤードの澤木 健司さん(左)と倉田 真さん

それが、美濃・古川紙工株式会社の手がけるブランド・古川商店の『鳳凰』シリーズです。

『鳳凰の涙』は、花嫁が結婚式で流す涙や子どもの初泣きなど、一生に一度の大切な場面の思い出をいつまでもカタチに遺しておけるように、涙を染み込ませて保存するための薄くやわらかな美濃和紙と楡のフレームがセットになった商品。『鳳凰の手紙』は、和紙の原料に貝を焼いた『貝殻胡粉』を漉きこむことで、純白と光沢、滑らかな筆記特性を追求したレターセットです。ともに、国産最高級の原材料にこだわりの美濃和紙の手漉き職人による繊細な手技によって作られる逸品です。

千年後に紙を遺すために必要なこと

「紙の品質を決めるのは、ちりとり[※]の作業なんですよ」。

そう話すのは、『鳳凰の涙』を担当する、手漉き和紙職人ユニット、コルソヤードの澤木さん。この「ちりとり」とは、和紙の原料となる楮を炭酸ソーダとともに大釜で煮たのち、まだ紙料に付着している黒皮などのチリ、繊維が固くなつてしまったり、変色してしまった部分などを、流水の中で丹念に手で取り除いていく工程のこと。「手漉き職人」というと、紙を漉いているイメージが強いかもしれませんが、実際にはこの作業が仕事の大半です(同氏)と語るように、1週間ひたす

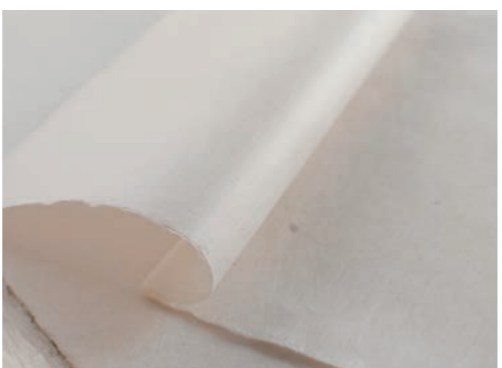
ら「ちりとり」をして、やっと1日紙を漉く分の原料ができるそうです。
コルソヤードのお二人に、この「ちりとり」にこだわる理由を聞くと、「ただ真つ白な紙を作るのであれば、漂白剤を入れてこまかすこともできるんですけど、化学物質が入った紙は数年で変色し、劣化してしまう。薄くて白く、強靱で長持ちする紙を作るには、時間がかかって効率が悪くても、自然の材料だけを使用するしかないません」とのこと。これは、先述の正倉院に残る戸籍用紙と同じ製法であり、この商品のコンセプトにある「千年先に遺す紙」を作るためには、不可欠な作業というわけです。

1300年余の伝統を支えるもの

日本三大清流のひとつとして知られる長良川沿いにある幸草紙工房。そこで手漉き和紙づくりに汗を流す加納さんが担当するのは、『鳳凰の手紙』に使われる、材料と純白にこだわった高級和紙です。



ちりとりを終えた原料を、紙打石(かみうちいし)という石の板の上に広げ、自作した叩き槌で叩く。



加納さんが所有する200年前の手漉き和紙。その美しさは長い時間を感じさせることのない風合いで、手触りも滑らか。

幸草紙工房・加納 武さん

「『本当』にいいものを求められた時、参考になったのは先人たちのやり方でした」と話す加納さん。その言葉に裏付けするように、工房内には昔ながらの漉舟や、漉き上げた紙に圧力をかけて水分を絞る圧搾機、外には紙材の繊維を取り出すために煮る大釜がよく手入れされた状態で置かれています。

「ちりとり」が終わった原料を叩いてほぐすための木槌は、昔の文献を参考に自分で作り直しました。この叩解の作業はピーターという機械を使うこともできるのですが、より手間ひまをかけることで、よりいいものができるんです」と加納さん。時間を見つけては美濃和紙の製法を記した古い文献から学び、実際に全国の和紙の産地へ足を運ぶなど、たゆまぬ努力を続けています。

薄くて丈夫、漉きムラがなく、その繊細できめ細やかな風合いが愛され続ける美濃和紙。その1300年以上続く伝統には、手漉き職人たちのあくなき探究心と労を惜しまぬひたむきな努力、そして何よりも和紙に対する熱き想いが詰まっています。

※美濃ではこの「ちりとり」を「紙しばり」とも言います。



3	2	1
6	5	4

- 1 『鳳凰の涙』で使用される、良質な那須楮。
- 2 「ちりとり」工程。これをいかに丹念に行うかで、品質が決まる。
- 3 「ちりとり」を終えたのち、紙材の繊維をほぐす。
- 4 トロロアオイという植物の根から抽出した液体(天然素材)。繊維とともに漉舟の中に入れて混ぜる。
- 5 紙漉き作業。水溶液のように見えるが、トロロアオイが混ざった水中で繊維が浮遊しているだけ。
- 6 薄くムラのない美濃和紙が完成。

製造・販売:古川紙工(株)
『古川商店/Furukawa Store』
<http://furukawashoten.jp/>

『鳳凰の涙』▶

- ・「花嫁のたからもの(なみだ紙+楡フレーム)」 10,500円
- ・「なみだ紙(紙箱入り)」 2,940円



『鳳凰の手紙』▶

- ・「手漉き美濃和紙レターセット(便箋15枚+封筒5枚+収納ケース)」 31,500円
- ・「便箋(15枚)」 10,500円
- ・「封筒(5枚)」 10,500円
- ・「一筆箋(15枚)」 7,350円
- ・「葉書(5枚)」 5,250円

SUPPORT ACTIVITY

東北復興の願いを込めて、
全社に仙台七夕飾りを展示。

6月25日から8月10日まで、全社で仙台七夕飾りを展示しました。期間中、各支店にはミニチュア飾り、本社ビル1Fエントランスには色彩り鮮やかな和紙で作られた、約4メートルの七夕飾り5基が設置されました。この七夕飾りは、昨年発生した東日本大震災の被災地支援の一環として行ったものです。東北復興への願いを社員やその家族、取引先、近隣のみなさんに短冊へ記入いただき、8月6日から開催された仙台七夕まつりの会場に届けました。



社員や家族が書いた短冊



京都支店のミニチュア飾り



本社1Fの七夕飾り

PUBLICITY WORK

公式ウェブサイトが
新しくなりました。

7月下旬、当社公式ウェブサイトをリニューアルいたしました。デザインは、白を基調とした明るくすっきりとしたものに一新。事業・サービス内容の紹介を充実させるとともに、トップページに大きめのアイコンを置くことで、当社の特徴がよりわかりやすいものになるように努めました。また、近年スマートフォンからのアクセスも多いため、専用ページも作成しました。新しくなった国際紙パルプ商事公式ウェブサイトをぜひご覧ください。

公式ウェブサイト <http://www.kppc.co.jp/>



紙が支えるプロの技

「紙が紡ぎ出すものがたり」

第三回 レターペーパーに書かれた小説

村上春樹さんの『ノルウェイの森』

1986年の秋から3年間、小説家になって7年目の村上春樹さんは、ギリシャやイタリアの各地を移動し、気に入った場所があればそこに滞在する、という生活を続けながらエッセイや翻訳、小説の原稿を書いていた。30歳の時、『風の歌を聴け』で小説家としてデビューし、以来順調に仕事を続けていたが、いわゆる日本の文壇やメディアや、もちろんほかにも公私にわたってさまざま思うところがあった村上さんは、どこにいても仕事はできるのだから、と日本を脱出し、しばらくの間南ヨーロッパで暮らすことにしたのだ。

観光客が誰も来ない、おそろしく寒いシーズンオフのエーゲ海の島・スベツェスで、村上さんは小説を書き始めた。それはこれまで書いてきたものとはちよと違う、リアルな男の子や女の子が登場する300枚くらいのさらっとした物語になる予定だった。

サマーハウスとして建てられたスベツェスの寒すぎる家からミノコス島のレジデンスへ、そこからイタリア・シシリ島のパレルモ、そして小さなキッチンが付いたローマのホテルへ。1ヶ月くらいの単位で移動を

続けながら、村上さんは書き続けた。今なら間違いなくノートパソコンを持って移動するだろうし、編集部との原稿のやり取りだって瞬時に可能だ。しかしそんなに遠くない昔に思えるパブルの頃、日本にはまだパソコンで原稿を書く小説家はいなかったし、もちろんEメールに原稿を添付してやり取りする、などという、今ではものすごく当たり前のことも行われてはいなかった。

人々は紙に、小説家は原稿用紙にペンや鉛筆で、もしくはまだ使いにくかったワープロで原稿を書き、郵便かFAX、あるいは自分の足を使ってその受け渡しをしていたのだ。

村上さんもそれまで日本では、縦書きの原稿用紙にモンブランの万年筆で原稿を書いていた。が、移動予定の多いその旅に、何百枚もの原稿用紙を持って行くわけにはいかなかった。だから現地で購入した、使い勝手のよさそうなレターペーパーやノートに、細かい文字を書きやすいボールペンや細いフェルトペンを使って物語を書き始めたのだ。レターペーパーは薄いので、原稿の量が増えてもあまり重くならない、という利点もあった。そうして見知らぬ街のアー



村上春樹

1949年生まれ。小説家。1979年『風の歌を聴け』で群像新人文学賞受賞。ベストセラーになった『ノルウェイの森』『1Q84』ほか、『レイモンド・カーヴァー全集』『グレート・ギャツビー』など訳書も多い。『ノルウェイの森』『ダンス・ダンス・ダンス』執筆当時の日々は、エッセイ『遠い太鼓』に詳しく書かれている。

トメントやカフェのテーブルで、村上さんと二階に旅を続けながら、物語はどんどん成長していった。

翌1987年の春、ローマで完結した小説は、日本から届いた原稿用紙に清書してみると900枚に近い長編になっていた。村上さんはその物語に『ノルウェイの森』というタイトルをつけ、ポロニーヤのブックフェアにやって来た日本の編集者に手渡した。

そしてその年の秋、赤と緑のクリスマススカラーに装丁された上下巻の『ノルウェイの森』は書店に並び、200万部という爆発的なベストセラーとなった。村上さん自身は、「どこで書いても、何に書いても、何で書いても、結局は同じものになるみたい」と語り続けている。が、「読者としては、あまりにも多くの人に愛されたあのせつないラブストーリーが、がつしりとした書齋の机ではなく、外国の街角のカフェやアパートメントのテーブルで、ラブレターを書くがごとく横書きで綴られていったのだと思うと、よけいに愛しくせつないものに思えてくるのだ。

紙の“先端”にフォーカス
「EDGE of PAPER」

01 「KAMOME (カモメ)」

発売：(株)PHONON <http://phonon-inc.com/>

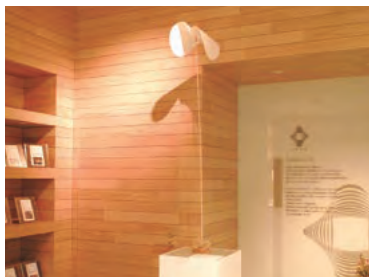
音質にもこだわりぬいた
「紙」のスピーカー

長い棒の先端に伸びる、一對の羽のようなユニークなフォルム。実はこれ、紙でできたスピーカーなのです。そのしくみは、台座部分にある特殊な振動板から発生した微弱振動が、ボールの部分を経由して羽のようなカタチをした紙から音として放出するというもの。つまり、その発音原理は、声の振動を糸で伝える“糸電話”と同じというわけです。そこで、気になるのが音質ですが、クリアで高品質な音にこだわるフォンン社製なので問題なし。柔らかい音が、広く、遠くまで届きます。また、挟む紙は取り替え可能。厚さや形状、サイズの違う紙で、音の違いを楽しんでみては？

※今冬発売予定

羽(紙)の部分は付け替えることができるので、音の出るポスターやPOPとしての活用も。

(iPodやCDプレーヤー等に接続できる、出力20Wのアンプ付)



ココから音楽が鳴っているとは誰も気づかない!?



02 「『Snowflake』シリーズ」

発売：家田紙工(株) <http://www.iedashikou.com/>

クリスマスを楽しむための
和紙で作った「雪華模様」

上空の気温や風の強さによってカタチを変えるが故に、「空からの手紙」と呼ばれる雪の結晶。その美しい文様を手漉き和紙でそのまま再現したものが、この「Snowflake」です。ガラスにあて、霧吹きで水を吹きかければ、部屋の窓などに貼るインテリア・ステッカーとして楽しむことができます。きめの細かい和紙の繊維は、本物の雪そっくり。クリスマスムードを楽しむアイテムとしておすすめです。

デザインパターンは全22種類。
サイズもL、S、SSの3種類。



霧吹きで水を吹きかければ完成。のりなどの接着剤を必要としないので剥がした跡が残ることなく、繰り返し使うことができます。

編集後記

昨年の夏は猛暑で「電力不足にヒヤヒヤ」していましたが、今夏は社内電力ダイエットキャンペーンにエントリーしているものの、思うように節電できず「冷や汗」をかき始末。梅雨明けの7月末にモビール作家いろいろさんの取材に同行し、工房ではモビールがエアコンの風に乗り涼しげに揺れ、冷たいハーブティーをいただきながら心地よい気分を味わっていました。ところが、通常は製作時にはエアコンも扇風機も消し、暑さと格闘しながらの作業とのこと。このときに猛暑対策をお尋ねすればよかったです、後悔しきりです。

さて、今号では「虹とバルーン」のモビールが本誌特別仕様になっています。窓辺に飾って秋空を感じてみませんか。(J・S)

7月に『愛でる』の取材で岐阜県美濃市を訪ね、和紙づくりを見学させていただきました。かつて和紙づくりは冬にしかできず、寒い時に冷たい水で紙を漉いていたそうです。そのため子供たちには苦勞をさせたくないとの想いから積極的に伝承されず、後継者が徐々に減っていったといいます。そして今日、伝統を途絶えさせたくないという若い世代の方たちによってふたたび和紙づくりがさかんになってきているのだそうです。

手漉きの和紙は作る人の想いが込められているぶん温かみがあり、手にした人を優しい気持ちにさせてくれるのだと思います。(M・T)

満月の光だけで撮影された 繊細で壮大な夜のドラマ。



『月光浴 Moonlight Blue』

新井 満(著)・石川賢治(写真) / 小学館

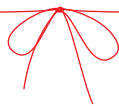
「春花秋月」という言葉があるように、秋の月はひときわ美しい。これは、秋は大気の湿度が低いために月がくっきりと見えるということが理由のひとつ。もうひとつは、秋の月は夏よりも位置が高く、冬よりも低い。月が高い冬は遠くに見上げづらく、低い夏は地上の灯りや塵に邪魔されてしまう。秋は、月を愛でるのにぴったりの季節というわけだ。

太陽光線を反射し夜空に輝く月。その反射光は太陽光線の約7パーセントだという。そんな満月の光だけで、照明を用いずに夜の風景をとらえた写真集がある。石川賢治氏

の『月光浴』だ。

写真の歴史150年目にして初めて試みられたこの月光写真集は、ヒマラヤからバリ、サイパン、ハワイ、パオ、そして日本の満月の夜のドラマを清冽に映し出している。そこには夜にだけ繰り広げられる世界が生き生きと広がっており、我々の知らない美しいものがこの世にたくさんあることを教えてくれる。なかには奇跡的と言って良い距離から撮影されたボルケーノの写真も。「マグマは地球の光」という撮影者の言葉は、我々が暮らす地球が躍動的に命を燃やしていることを思い出させてくれる。

ブルーと白と黒と、ほんの少しの色彩で表現された雄大で繊細な月光の世界は、20世紀末の水墨画のようでもある。257ミリ×364ミリと大判で、迫力ある一冊となっている。この秋は、大きな月に照らされて密かに息づく夜の美しさにも目を凝らしてみてもどうだろう。あなただけの「夜のドラマ」が見つかるかもしれない。



輸送マイルージとCO2排出を抑え、地球温暖化に配慮したライスインキを使用しています。

エコプレス
バインダー

針金・糊・加熱が不要な製本方法を採用し、リサイクルや怪我の危険へ配慮しています。



国際紙パルプ商事株式会社

KOKUSAI PULP&PAPER CO.,LTD.

〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号

TEL (03) 3542-4111 (代)

URL <http://www.kppc.co.jp/>